

平成 27 年 9 月 19 日

大学評価担当者集会 2015・プレイベント 1 実施概要
「米国における IR の実践事例－指標の設定とその活用－」

1. はじめに

日本の大学でも、IR オフィスの立ち上げや教務系組織への IR 部門の設置等が活発化している。しかしながら、それら組織で働く担当者からは、「何から手をつければ良いのか」、「どのようなデータを分析すれば良いのか」、「分析結果を執行部に活用してもらうためにはどのようにすれば良いのか」という意見が少なくない。

米国の大学では、入学者の獲得、学生の在籍等の明確な目的のために IR オフィスが存在しており、そのために大学に存在するデータ等を分析することで、執行部への意思決定支援を行っている。では、具体的な意思決定支援とは、どのようなことを行っているのか？

本イベントでは、米国ミネソタ州のベミジ州立大学（BSU）の IR/IE 室が行っている IR 活動の現状及び実践事例を紹介した。また、日米の高等教育の違いを踏まえながらそれら指標の適用可能性を検討するとともに、日本の大学データを使って計算した事例を基に指標の策定に対する考え方を示し、今後の我が国における大学経営に活かす指標の活用方法等について議論した。

2. 会場・日時

平成 27 年 8 月 27 日（木）10:00－12:00

神戸大学 六甲台キャンパス 神大会館（百年記念館）会議室 A

3. 出席者

申込者 35 名中 34 名出席（うちスタッフ 7 名）

（出席者の属性については別紙参照）

4. タイムテーブル

挨拶・趣旨説明 [10:00－10:02] 小湊卓夫（九州大）

「米国における IR の実践事例－指標の設定とその活用－」 [10:02－11:15]

藤原 宏司（ミネソタ州立大学機構 ベミジ州立大学・ノースウェスト技術短期大学 IR/IE 室 副室長）

- ・米国の現場から、勤務校で集計、分析している学科間比較を目的とした指標について、その背景と実際の活用事例を交えて報告してもらいました。

1. 指標（indicator）とは？
2. 米国の大学に関する基礎知識
3. BSU Program Indicators
4. まとめ

「指標の活用に向けた試行的取り組み—米国州立大学で使われている指標群を使ってみる!—」

[11:15—11:55]

大野 賢一（鳥取大学 学長室 IR セクション 学長特別補佐（IR 担当））

- 日本の大学のデータを用いてそれらの指標を計算し、その際の課題等について報告を行いました。

1. BSU 指標の適用可能性を探る
2. 日本のデータを適用してみたら？
3. 日本での指標策定に向けて

2つの報告を踏まえた質疑応答 [11:55—12:00]

5. この勉強会の進め方

- 今回は、モデレーター（小湊卓夫（九州大））が会場内の状況を踏まえながら、適宜、コメンテーター（浅野茂（山形大）、佐藤仁（福岡大））や他のスタッフと共に日米の高等教育の置かれた状況の違いなどについて補足説明を行いました。
- 参加者の皆さまからも講演の途中で自由にご質問やコメント等をしていただく形式で進めさせていただきました。慣れない形式かとは思いましたが、多くの方にご発言いただけたようです。

6. スタッフについて

浅野茂（山形大）、○大野賢一（鳥取大）、小湊卓夫（九州大）、佐藤仁（福岡大）、関隆宏（新潟大）、藤井都百（名古屋大）、藤原宏司（BSU/NTC）